



20年以上続けている湯野浜小学校遠泳大会の伴泳



毎年の海岸清掃は子ども達も参加しておこなわれる!



湯野浜サーフィンチーム カップ
住所：山形県鶴岡市道形町11-24
電話：0235-22-6933(会長 菅原宅)
e-mail：kokis@cameo.plala.or.jp



波乗り発祥の浜 湯野浜



「瀨のし」のモニュメントは赤禪が印象的

日本の波乗りの歴史は 湯野浜から始まった!

江戸時代の文献に、庄内藩の湯野浜の地に於いて、子ども達が板をもって「瀨のし」と呼ばれる波乗りをしているという記録が残っています。つまり、湯野浜が日本における文献的な波乗り発祥の地とされているのです。

近代サーフインは1960年代初頭、駐留米兵が湘南や千葉で始めたことされていますが、同じ頃、この湯野浜で独自にサーフインを始めた人物がいました。日本人サーファー第一号とも称される白澤憲一氏(故人)がその人です。氏が創設した「サーフィンチームカップ」は、日本屈指の歴史を誇り今年で47年目。世界的に見ても長い伝統をもつサーフィンチームとされています。

2000年夏、「瀨のし」のモニュメントと、「波乗り発祥の浜」の碑が建てられました。ここにその原文を紹介いたします。

波乗り発祥の浜

瀨のし

一枚の板で波に乗る瀨のしは、湯野浜の歴史と共に受け継がれて来た若者達のマリンスポーツでした。文献上に出ているのは酒田の俳人が1821年湯野浜湯治に来て付けた日記である「この辺の12、3歳位の子供達が10人ばかり、手に手に舟の板を持って、荒波の中へ飛び込んで沖へ沖へと乗り出していく。沖へ出たかと思うと今度は波に乗り岸に向かって戻ってくる。その早いこと、矢のようである。これを何回もくりかえしている。」と。何のことはない今のポディーボーディングのルーツなのだ。

波乗り

1900年になると、板を使わず体だけで波に乗る、「所謂湯野浜流波乗り」を、若者達が完成させたのです。高度のテクニックが必要でその美しさと豪快さは日本一と言われました。

サーフィン

日本海で最初のサーフインは、この湯野浜海岸で始まったのです。1965年の秋でした。

2000年夏
湯野浜住民会 サーフィンチームカップ
湯野浜観光協会 湯野浜原住民クラブ

湯野浜はチームの原点 サーフィンチームカップ

波乗り発祥の浜を本拠地とする誇りと、伝説のサーファー白澤氏の意志を継ぎ、メンバーたちは様々な活動に取り組んでいます。20年以上続けている湯野浜小学校遠泳大会での伴泳協力。また毎年、海水浴シーズン前には家族ぐるみで海岸清掃をおこなっています。他人が放棄したゴミを拾いながら、子ども達はマナーの大切さや美しい自然のありがたさを学ぶといえます。

波乗り発祥の浜・湯野浜には、秋から冬にかけて県内外から多くのサーファーが訪れます。

